

この出入口のこと知ってる？

阪神高速の出入口再発見！

しろきた「城北」

12号守口線 [城北出口]



菅原城北大橋から見た城北ワンド。淀川で最も大きなワンド群。デ・レーケによる「粗朶沈床工」は、岸から見てT字型に粗朶を置き、その上に石で重しをして沈めた。やがて粗朶のまわりに土砂がたまり、川の本流の脇にいくつものワンドが誕生した。

蒸気船を航行させるための明治時代の工事が、淀川のワンドをつくり出しました

都会にありながら、魚類や貝類などが生息する、緑に囲まれた「ワンド」が数多くあります。なかでも、12号守口線の城北出口の北に位置する「城北ワンド」は、淀川で最も大きなワンド群です。淀川のワンド、城北ワンドについて、淀川河川事務所・河川環境課の正木秀宜さん、天野敦史さん、速水宏実さんに聞きました。

川底に沈めた粗朶がワンド形成へ

都会にありながら、魚類や貝類などが棲む貴重な自然環境となっている淀川のワンド。このワンドがどのようにして誕生したかご存じでしょうか。淀川は、古くから大阪と京都を結ぶ舟運に利用されてきました。江戸時代には、三十石船約28人乗りと呼ばれた小型の木の船が淀川を行き来し、その旅客を狙って酒や食べ物、売るさらに小さな舟の「くらわんか船」も淀川の名物でした。

明治時代に入ると、貨物や旅客の輸送量は大幅に増加。それに伴って、大型の蒸気船の導入が計画されます。ところが淀川の水深は40cmほどと浅く、大型船の航行に必要な水深150cmには遠く及びません。そこで採用されたのが、オランダから招かれた技師、デ・レーケが提唱した「粗朶沈床工」でした。粗朶とは、クヌギ、クリ、カシ、ナラなどの硬くて丈夫な木の枝を格子状に編んだマットレスのような工作物です。これを川の両岸に沈めることで、川底の川幅が狭くなります。すると、川の中央部に

エッセイ 秋 季節の言葉

秋が深まってくると、近畿地方各地の地場産品の市場や道の駅などで、栃餅^{とちもち}が売られているのを見かけることがある。秋のはじめに、沢筋の栃の木の大木から落果したトチノミを拾い集めて、沢水に晒し、竜^{かまじ}の木灰と合わせるなど手間ひまをかけてアク抜きして、糯米と搗き合わせて、やつと完成したのがトチモチなのである。まさに、山村に暮らす人々の生活の知恵の結晶といえるのである。西日本各地では、トチノミに加えて、カシノミやシイノミといったドングリ類を食べる習慣が残っている。特に、苦みの成分であるアクの少ないシイノミは、軽く煎っただけでも食することが可能である。高知県や熊本県では、カシノミのデンプンを固めたカンテン状の食品も伝わっている。

トチノミとドングリ

日本海側や九州北部に伝わるエゴやオキユウトなどと呼ばれる海藻のテングサを煮て固めた食品と類似している。海の幸と山の幸、全く原材料が異なるが、見た目や食感がほぼ同じものが出来上がるのが不思議である。

トチノミとドングリ類は、縄文時代から主要な食糧資源となっていた。縄文人は狩りばかりしていたと考えられがちであるが、木の実のデンプンから安定したカロリーを得ることが重要なのである。約8000年前の佐賀県東名遺跡^{ひがしなづか}では、ドングリ類を入れて水の湧き出る穴に保管した細長い不思議な縄文デザインの籠が複数発掘されている。その後の3500年位前のドングリ類を地下に保管した

大きな穴は、岡山県や兵庫県、奈良県など近畿地方各地で発掘されている。なかでも、奈良県宇陀市の又兵衛桜という枝垂れ桜で有名な遺跡では、大量のカシノミが保管された深さ1mほどの貯蔵穴が複数発掘されている。このような発掘調査でドングリやトチノミの食習慣の痕跡が確認されるのは、古墳時代頃までである。一方、文献資料としては、江戸時代の農業書や風俗書では、飢饉とさきの救荒食として、記述されている。残念ながら、中世の状況はよくわからない部分が多い。筆者は、このような縄文時代からの食文化を伝えたのは、山伏などの修験者ではないかと考えている。これを裏付けるように、修験の行場として有名な場所に、トチノミやドングリ類の食習慣が伝承されているのである。

武藤康弘 むとうやすひろ (武庫川女子大学文学部教授)

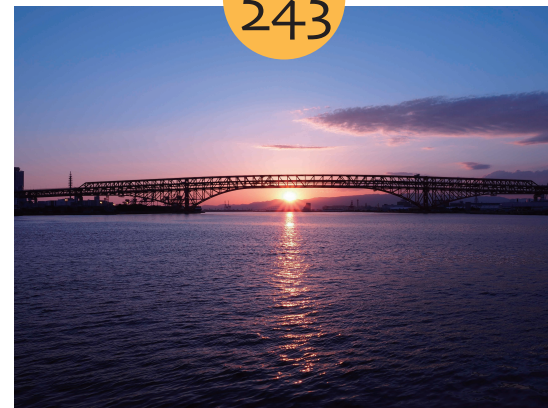
専門は考古学・文化人類学・民俗学。1959年秋田県生まれ。2024年武庫川女子大学文学部歴史文化学科・学科長。子供の時に山野で拾い集めた土器や石器を、授業で活用している変な考古学者です。

関西とともに「阪神ハイウェイ」

HANSHIN HIGHWAY

2026 AUTUMN VOL.

243



～阪神高速のある風景～
第5回 阪神高速フォトコンテスト優秀写真

CONTENTS

エッセイ ● 季節の言葉

トチノミとドングリ 武藤康弘

この出入口のこと知ってる？ ● 阪神高速の出入口再発見！

しろきた「城北」

12号守口線 [城北出口]

蒸気船を航行させるための明治時代の工事が、淀川のワンドをつくり出しました

関西の名工

4 西川昌美 さん (天満切子師)

グラスに美しい模様が映り込み、使うたび、万華鏡のように輝く天満切子

教えてセンセイ

6 井上主税 さん (関西大学文学部教授)

政治・文化の大きな変革期だった飛鳥時代
国際的視野に立った古代国家が誕生しました

阪神高速の取り組み

8 「阪神高速おでかけパス」でつなぐ人・地域・新たな移動価値

10 ちょっと行ってみたい関西うまいもん

大和いも ● 奈良県天理市

12 Hanshin Highway TIMES

お客さま満足プラン2026/12月10日は世界人権デーです



表紙イラスト〈菅原城北大橋からワンドを望む〉
ヤマサキタツヤ：大阪生まれ大阪育ちのイラストレーター。誌面やWebなど各媒体で活動。
「来た見た食うた 大台南見聞録」(書肆侃侃房)など主に台湾に関する書籍を出版。

水の流れが集まり、その水流の勢いで川底に堆積した土砂を押し流すという工法です。

粗朶沈床工によって水深が確保され、淀川を蒸気船が航行できるようにしました。川の流れを蛇行させて緩やかにし、航行するのに適した流れをつくるために粗朶を設置した箇所もあります。

こうして明治の初めから昭和20年くらいまでに、川岸から丁字を描くように川底に設置された粗朶沈床のまわりには、しだいに砂や泥がほどよく堆積し、川の主流とは切り離された、たまり“のよう な場所が誕生します。これが、ワンドです。ワンドには、洪水などで水位が高くなった時だけ本流とつながるもののほかに、普段から本流とつながっているけれど流れが緩やかなものもあります。

このようにしてでき上がったワンドこそが、在来種をはじめとする魚類や貝類など、多様な生物が生息・生育・繁殖するのに最適な環境となります。大型の蒸気船を通すために実施した工法が期せずして、魚や貝類の絶好の棲みかをつくり出すことになったのです。

水辺にはヨシやマコモなどの水生植物が生え、水生植物に卵を産み付ける特性を持つコイやフナなどの繁殖を助けます。また、生まれたばかりの稚魚は大きな魚に捕食されることが多いので、身を隠すためにワンドのような浅場に本能的に集まります。ワンド特有の水流が緩やかな環境を好む魚も多くいます。

イタセンパラがいるワンドが目標

ワンド特有の環境を好む代表的な魚が、城北ワンドで昭和40年代半ばに確認された、タナゴの仲間である「イタセンパラ」です。残念ながら、令和5年度の城北ワンドでの調査においては確認できませんでした[※]、国の天然記念物にもなっている、淀川のシンボルフィッシュです。

イタセンパラがいる環境は、多様な生物が棲む環境の証明であるとも言われます。というのは、イタセンパラは浅い川底にいる二枚貝のイシガイの中に卵を産む習性を持っているため、イシガイがないと産卵ができません。そして、イシガイなどの二枚貝もヨシノボリという在来種の魚のエラに幼生を寄生させて成長する習性を持っているため、ヨシノボリの存在が必須です。イタセンパラは、こうしたさまざまな生物がいて初めて繁殖サイクルが成立するのです。

城北ワンドには、イタセンパラ同様に二枚貝の中に卵を産むカネヒラのほか、タモロコ、オイカワ、ムツゴなど、さまざまな在来種の魚が今も棲んでいます。同時に、オオクチバスやブルーギルなどの外来種も増えています。

城北ワンドのすぐ下流には、昭和58（1983）年に完成した淀川大堰があります。淀川大堰は、人間を洪水などから守る治水、あるいは利水には非常に重要な役割を果たす一方、イタセンパラな

どワンドに棲む生物にとっては、その存在が最適な生息環境から遠ざける一因にもなりました。その理由として、大堰は治水のために水位変動を一定にコントロールします。しかし、イタセンパラなどは、自然な水位変動がある環境を好む魚だということがわかっているからです。大雨が降って川の水位が高くなり、ワンドとワンド、ワンドと本流がつながったタイミングで、その間を行き来できる環境が好ましいのです。

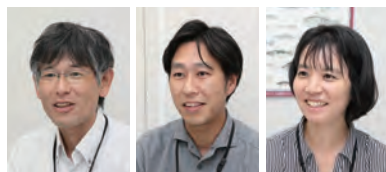
そこで、城北ワンドでは、令和4年度に城北大橋の上流と下流にある2つのワンドの間に、新しいワンドを整備しました。新しいワンドの上流側と下流側にそれぞれ開口部をつくり、ワンドからワンドへ水が循環し、生物が行き来できるようにしました。新しく整備したワンドでは、同年の魚類調査では在来種が



淀川のワンドでは、イタセンパラをはじめとする多様な生物の生息・生育・繁殖環境を保全するため、ワンドの機能改善などを実施している。今後も地域住民や行政機関などと協力し、環境保全活動や調査を継続して実施していくこととしている。



古くから治水工事が行われ、航路としても重要な役割を果たしてきた淀川をテーマとした「淀川資料館」。「くらしと淀川」「淀川の歴史」「淀川の環境」の常設展示コーナーなどがある。枚方市新町2-2-13



「イタセンパラは、平成6～17年度までは確認でき、平成18年度からは確認できない状況が続いたため、平成25年度に500個体を放流。その後、令和4年度までは確認できていたという経緯があります」と淀川河川事務所の天野さん、正木さん、速水さん（写真左から）。

※全数調査ではないため、令和5年度にいないったとはいえません

★城北公園／千人つか

明治に行われた淀川付け替え工事で、空き地となった旧淀川の河川敷を利用して、昭和9（1934）年に開園した城北公園。広さ約9.5haの園内では、春は桜、5～6月には約250種13,000株の花菖蒲が咲き乱れ、多くの市民でにぎわう。城北公園に臨む淀川堤防上には、昭和20（1945）年6月7日の大空襲の犠牲者を悼む、戦争慰霊碑「千人つか」がある。

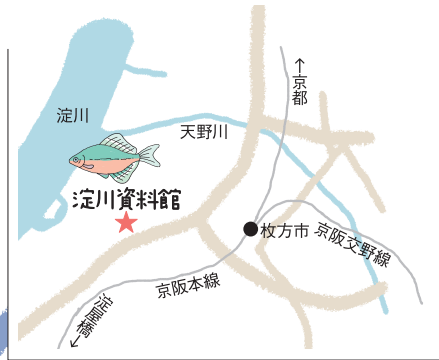


★日吉神社

平安時代、多くの荘園がこの地域に開発されたが、淀川が頻繁に氾濫して災害が多発。そのため、天台宗の巨刹「赤川寺」が災害鎮護などを願って建立されたと考えられている。その境内に室町時代、大津の日吉神社から分霊を迎え、「山王社」または「山王権現」として神社が建立された。大坂夏の陣で赤川寺は戦火に炎上したが神社は残り、明治元年に「日吉神社」に改称。淀川拡張工事のため本殿を200m南に遷座し、今も地域の人々の信仰を集めている。

★大宮神社

創建は平安時代末期、源義経によると伝えられる。豊臣秀吉が大坂城を築いた際には、大宮神社は鬼門の守護神として崇敬された。江戸時代も引き続き、大坂城の守護神として大坂城代の交代時には参拝が行われた。令和2（2020）年には、国内最大の秀吉像木像である「伝豊国大明神坐像」が大宮神社の高良社から発見され、木造童子形神立像などとともに、大阪市指定有形民俗文化財に指定された。



★八幡大神宮

天智天皇の頃、藤原氏が春日大神を産土神として祀ったのが始まりとされる。別名を「不焼宮（やけずのみや）」といわれる。浄土宗本山来迎寺（守口市）の開祖・誠阿上人が賊徒に追われ当宮に身を隠したが、見つけ出され火を放たれた。しかし、火はたちまち消え、その助かった恩に報いるため、男山八幡宮の御分霊を当宮に奉祀し、以来、豊饒が大きかったことから、主神を八幡大神とし現在に至る。火難除け、厄除けなどにご利益があるといわれる。



★千林商店街

100年以上の歴史があり、「大阪三大商店街」のひとつとされる。当初は、呉服や衣服、飲食料品などを主に取り扱っていたが、現在は下町の風情が残る約660mのアーケード街に生鮮品や生活雑貨など、200を超える個性豊かな店舗が並ぶ。昭和32（1957）年に、日本初のスーパーマーケットといわれる主婦の店ダイエーが開店したことでも知られる。

★大阪市立芸術創造館

大阪市が設置した初の舞台芸術専用練習施設。大小さまざまな演劇練習室と、プロ仕様の設備を備えた音楽練習室があり、劇団、ダンスカンパニー、バンド、アカベラグループなど、幅広いジャンルの表現者が利用できる。「大練習室」は舞台機構を備え、演劇公演や音楽ライブなど、練習から本番まで対応でき、発表の場としても活用できる。多様な創作活動を支える施設として、表現者一人ひとりの活動をサポートするとともに、講座やワークショップなども開催し、舞台芸術の振興と次世代の人材育成に取り組む。



館内写真：大阪市立芸術創造館

★淀川ゲートウェイ

2025年、淀川の河口から約10キロメートル上流にある淀川大堰に完成した淀川ゲートウェイ。従来は、大川と淀川に分派点にある淀川大堰によって、淀川の航路は分断されていた。船の通り道となる淀川ゲートウェイが完成したことで、淀川河口・大阪湾と淀川上流・京都間の船の往来が可能になった。淀川ゲートウェイは、大型観光船4隻が同時通過できる国内最大級の大きさ。

